

単位: %

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	萎黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	ハスモンヨトウ幼虫	アザミウマ類	備考
ほ場率 (%)	発生ほ場数	9	0	4	4	4	14	1	3	0	総調査ほ場数: 51か所 総調査株数: 1,275株 (調査株数 25株)
	本年平均値	17.6	0.0	7.8	7.8	7.8	27.5	2.0	5.9	0.0	
	平年値	6.9	0.0	5.1	2.3	8.2	25.4	10.2	12.4	1.7	
	(本年平均値/平年値) × 100	255.1	-	152.9	339.1	95.1	108.3	19.6	47.6	0.0	
株率 (%)	発生株数	2	0	13	13	19	134	1	5	0	○今月の病害虫発生状況○ ・炭疽病、萎黄病は、平年と比べ発生ほ場率が高い状況です。 ・うどんこ病の発生はやや多い傾向です。 ・アブラムシ類、ハダニ類は、発生ほ場率は平年並みですが、甚発生ほ場もみられ、発生量のほ場間差が大きい傾向があります。
	本年平均値	0.2	0.0	1.0	1.0	1.5	10.5	0.1	0.4	0.0	
	平年値	0.4	0.0	0.4	0.0	1.0	5.8	0.6	0.8	0.1	
	(本年平均値/平年値) × 100	50.0	-	250.0	-	150.0	181.0	16.7	50.0	0.0	
発生程度		やや少	少	やや多	多	やや多	多	少	やや少	少	
概 評		やや多	少	やや多	多	平年並	やや多	少	やや少	少	

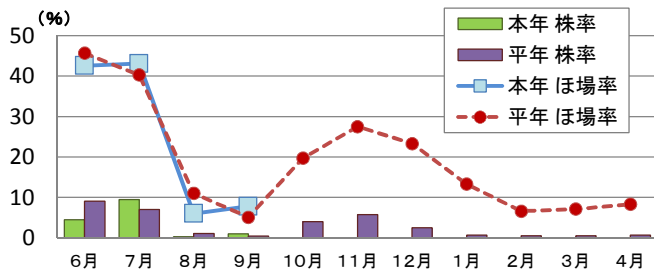


図1 うどんこ病発生ほ場率・株率

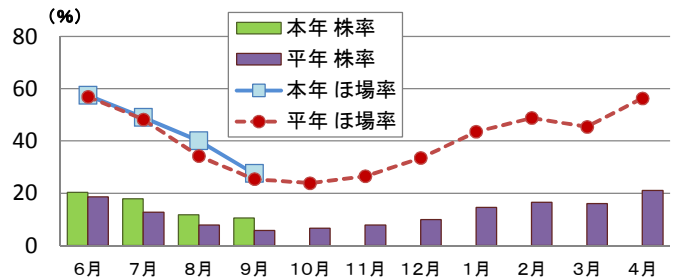


図2 ハダニ類発生ほ場率・株率

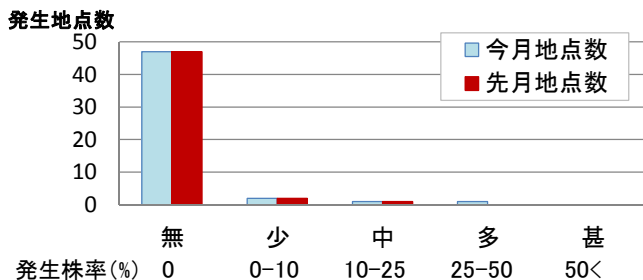


図3 発生程度別の地点数(うどんこ病)

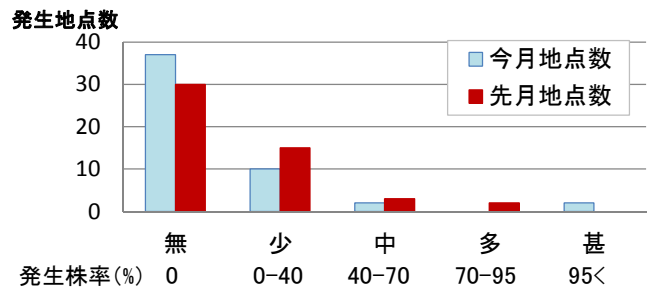


図4 発生程度別の地点数(ハダニ類)

### ○うどんこ病対策

- ・軟弱徒長すると発生が多くなるため、適正な温度管理やかん水を行う。
- ・今後増加のおそれがあるため、保温開始前からフルピカフロアブルやベルコートフロアブル等を散布して予防する。
- ・発生が見られたらアミスター20フロアブル等を散布する。

### ○ハダニ対策

- ・定植後は育苗期に比べて薬剤がかかりにくくなるため、葉裏にもかかるように丁寧な薬剤散布を心がける。
- ・天敵導入を予定する場合、導入時にハダニ類が多いと失敗しやすい。定期的に気門封鎖剤などを散布し、ハダニ類の増殖を抑制する。
- \* 当センターHPIに「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定結果」を掲載中。



写真1 ハダニ類によるカスリ葉

### ○今月の技術情報(技術指導班)○ (9月)

- ・いちごの定植は概ね順調に進んでいますが、育苗期に炭疽病による被害が見られ、定植後も発生することが懸念されます。
- ・また、ハダニ類の発生がやや多い状況です。今後も継続して防除するとともに、ハスモンヨトウにも注意する必要があると考えられます。
- ・8月下旬以降、気温の低下とともにうどんこ病の発生が多くなっています。今後もこれらの病害虫の発生が拡大する可能性があり、注意が必要です。日常のこまめな観察により病害虫の早期発見に努め、本ぽでの発生が拡大しないよう保温開始期までにしっかり防除しましょう。
- ・定植後は、畝内部への根張りを促進するため、活着後のかん水は少量多回数で行うとともに、マルチ張りはえき花房の花芽分化期以降に行うよう心がけましょう。
- ・近年、秋期に高温となる年が多く、株の消耗による作柄低下の要因となっています。適期作業や環境づくりが重要ですので、日頃から気象情報をこまめにチェックしましょう。